

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和5年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.1-	
重点項目	学習活動 【その1】
重点課題	学習習慣の確立と単位修得
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒の家庭環境や生育歴が多様で生活力・体力・学力の格差が大きい。</li><li>発達障害等の健康面や適応性の問題など様々な経緯により入学・転入編入する生徒が大多数である。生活習慣の確立と日々の学習活動が単位修得率に大きく関連している。</li><li>専攻科では生徒の知識・関心の度合いに差が大きく、一斉指導が難しい。実習において作業工程をしっかりと理解できない生徒が増加している。</li><li>昨年の単位修得率は、定時制・昼間単位制が88%、夜間単位制83%、通信制が54%（前期）、専攻科では96%（学年末）となっている。</li></ul>
達成目標	単位修得率 【定時制】前期末集計 80%以上 *昼間単位制・夜間単位制共通 【通信制】前期末集計 60%以上 【専攻科】学年末集計 100%
方 策	<b>【定時制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>出席率を向上させるため、健康面や学習状況に応じて教員間の連携や保護者への連絡など早期対策を行う。</li><li>年次担任を中心に生活指導や進路相談を充実させる。</li><li>不登校傾向など問題を抱える生徒に対してカウンセラーなど専門家や外部機関との連携を強化し、単位修得や進路目標を意識づける。</li></ul> <b>【通信制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>スクーリングや個別面談を通して生徒の学習状況を把握し、適切な助言や添削を行い、自学自習の意欲向上と定着を図る。</li><li>レポート提出前の個別指導や科目担当者との面談をより充実させ、学習達成度に応じた学習指導をきめ細かく行う。</li><li>学習活動が円滑に進められるようにガイダンスやホームルーム活動を通じて、気軽に相談できる環境を整え、目標に応じた学習に取り組めるよう支援する。</li></ul> <b>【専攻科】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の家庭環境や生活状況について調査した上で個々の学習目標と特性を把握し、効果的な学習指導を行う。</li><li>実習での予習と復習の時間を設定し、学習効果と実技の定着度向上を図る。</li></ul>
達成度	<b>【定時制】</b> 【昼間】単位修得率（86.1%）（前期） 【夜間】単位修得率（81.4%）（前期） <b>【通信制】</b> 単位修得率（56.5%）（前期） <b>【専攻科】</b> 単位修得率（92.2%）（学年末）
具体的な取組状況	<b>【定時制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>長期欠席等の様々な問題を抱える生徒に対し、早期に状況等を把握しスクールカウンセラー等の専門家や外部機関と連携し対応を図った。</li><li>出席状況を見える化するため、生徒出席状況一覧表を作成しホワイトボードに掲示することで、職員間での情報共有を図り指導にあたった。（夜間）</li></ul> <b>【通信制】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>レポート提出前の個別指導等により、生徒の理解度を確認し、学習意欲を喚起した。</li><li>転編入生徒や復活生に対してガイダンスや面談を実施し新たな学習環境への適応を支援した。</li><li>通信制における学習方法は中学校や全日制高校と大きく異なる。そこで学習リズムの定着を図るため、自分のできる範囲での単位の修得を目指す指導をした。このため単位を1単位以上修得した生徒の割合は68%と高い数字を得た。また自分の学習に自信を持った生徒も見受けられた。</li></ul> <b>【専攻科】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の出席や学習状況について教員間の連携を強化し、気がかりな生徒には、保護者への連絡や個別面談を早期に行った。</li><li>実習において自学自習の時間を設定し、学習効果の向上と技能の定着を図った。</li></ul>
評 価	B ・ほぼ目標値を達成することができた。
学校関係者の意見	引き続き単位修得ができるように努力してほしい。
次年度へ向けての課題	単位修得率向上のため、入学前の面談、受講ガイダンスを充実したい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学習活動【その2】	
重点課題	読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時制生徒の本校図書館利用は 63.4%と前年 (84.9%) に比べて約 22%近く減少した。</li> <li>・ 図書の間貸し出し数は 3.6 冊/人と昨年 (1.86 冊/人) に比べると増加している (昼間 2.01→3.7 冊・夜間 0.67→1.9 冊、人数比のため昼夜平均で 3.6)。</li> <li>・ 年間読書数は 14.9 冊/人(昨年度 11.54 冊/人)、年に 1 冊以上読書する生徒の割合は 58.5% (昨年 46.8%) となっている。</li> <li>・ 図書館利用状況は減っているが、図書の貸し出し数や読書数から、在校生の中で日常的に読書をする習慣がある生徒が増加していると推測される。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時制 (昼間・夜間) 生徒が 1 年間に 1 冊以上読書する生徒の割合 (電子書籍、マンガ含む) : 65%</li> <li>・ 図書館の利用者数 : 30 人/日以上</li> </ul>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス HR で図書館の利用や読書会を年 1 回以上実施し、本に触れる機会を増やす。</li> <li>・ 読書感想文・感想画どちらかの方法で感想をまとめ、それを題材にミニビブリオバトルを実施する。相互に認め合う一体感と、読書への充実感をもたせる。</li> <li>・ 生徒アンケートを実施し、生徒目線にたった図書のレイアウトを工夫する、新聞・雑誌の購入を検討するなど、親しみやすい図書館づくりをめざす。</li> <li>・ 話題性のあるタイムリーな本や雑誌の紹介等の取り組みをして、生徒の興味関心を喚起する。</li> <li>・ 図書委員会と連携し、生徒の負担軽減をしつつ、かつ楽しく達成感のある委員会活動を展開して、図書館運営の活性化を図る。</li> <li>・ 図書の選定においては、各教科担当者等の意見を尊重しながら、広い視野に立って年間を通して計画的に購入する。</li> </ul>	
達 成 度	1 冊以上/年読書する生徒の割合 73.0% 年間読書数 27.7 冊/人	図書館利用者数 29.2 人/日
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休みの読書感想文に感想画の呼びかけをし、感想画は 5 点の応募があった。</li> <li>・ ミニビブリオバトルは実施できなかった。</li> <li>・ 昨年度より見直された購入雑誌を目につきやすい棚に配置し、バックナンバーの貸出しを行った。</li> <li>・ 廊下掲示・電子掲示板で企画や図書への関心を促す呼びかけを発信した。</li> <li>・ R6 受講登録の参考資料として、新教科書を館内に展示した。</li> <li>・ 学園祭では、図書委員企画の一行小説や生徒リクエスト本の投票などの企画を行った。</li> <li>・ 本への関心を高めるために、学園祭企画でのリクエスト募集や、SLBA を広く教員から選定、教科希望図書を二段階で募った。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の利用者数のべ 4180 人。(前年度は 3769 人)</li> <li>・ 本を読む生徒の 62.0%(前年比+3.5%) が図書館の本を 1 冊以上借りており、年間貸し出し数は 3.39 冊/人 (昼間 3.73 冊・夜間 0.42 冊) である。</li> <li>・ 図書館を利用した HR 活動・学習が推進できるよう準備・連携が課題である。</li> <li>・ 新着・準新着図書の配架や企画展示、館内の雰囲気づくりに工夫を要する。</li> </ul>
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世情を鑑み、インターネット上などで視聴できるものについても、読書に関連した活動であればカウントすることはできないだろうか。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒図書委員活動の活動内容や時期については助言者の教員と委員会生徒で話し合う機会を増やし、内容をより充実させるとともに生徒の達成感・充実感を培う。</li> <li>・ イベント、だより、新着図書案内の発行時期・内容について年間計画をたてる。</li> <li>・ 図書を利用した HR 活動・学習が推進できるよう年次・特活と連携を図る。</li> <li>・ 生徒アンケートによる購入図書のリクエストの取り方を工夫する。また、リクエスト結果から購入する図書の選定方法を検討する。</li> <li>・ 生徒がより図書館を利用したくなるような図書の配架を工夫する。</li> <li>・ 企画展示、館内の環境整備と居場所づくりに努める。</li> <li>・ 廃棄基準に該当する図書の確認時期を、蔵書点検に間に合うよう適正化する。</li> <li>・ 2 月に設定した蔵書点検の良かった点、改善点を洗い出し、次年度の時期設定に生かす。</li> </ul>	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 【その1】	
重点課題	生徒の自律性・主体性の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校に在籍する生徒は、小・中学校で教室に入れなかった、または入らなかった生徒が多く、集団に入ることに消極的だったり、集団内で求められる行動ができなかったりするなど、集団の中での生活・行動が苦手な生徒も多い。また、規範意識が十分に育っていない生徒も見受けられる。</li> <li>自己肯定感や自己有用感が弱い生徒が多く、周囲の言動に影響されやすい。そのことが問題を引き起こすこともある。</li> <li>高校入学を機に、自分の目標を定め、学び直そうと地道に努力している生徒も多い。そのような生徒たちを後押ししたり、支えたりする雰囲気を作り出すことが求められる。</li> </ul>	
達成目標	<p>自律的な行動を通して自己肯定感を獲得する生徒の増加</p> <p>各課程の様々な教育活動の場面や学園祭等の学校行事において、自律的な行動が意識的に行われ、生徒が成功体験を通して自己肯定感をより高めること</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼間単位制では、生徒会が校則（生徒心得）を検討し、守るべき規範は何かを考える中で、その改善案を教職員と協議し、協議した内容を生徒全体に還元する中で意識を高める。</li> <li>夜間単位制では、生徒会や各種委員会、学校行事などの特別活動を活性化させる中で、生徒の自己肯定感を涵養するとともに、TPOに応じた服装を主体的に考えたり、ルールやマナーを身につけたりする機会を持つ。</li> <li>通信制ではスクーリング登校時に、学校行事やホームルームに参加することで、社会性を養い、多様性を身につけ、自ら学習する態度を培う。</li> <li>とりわけ、全ての課程の生徒が一同にそろう学園祭では、ルールやマナーを意識しながら行事を楽しむことができるように呼びかける。</li> </ul>	
達 成 度	<p>天候や体調に応じて着る制服を決める、積極的に挨拶する、集団の中で役割を發揮しようとする生徒が増えている反面、ルールやマナーに違反する生徒もいる。</p> <p>積極的に学習活動や学校行事で楽しもうとする生徒が増えているが、自ら企画・運営する力が十分には育っていない。自分が楽しければよいとルールやマナーを守れない生徒がいた。</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題が顕在化した段階で、生徒に理由も含めて注意を促すなど、生徒が理解・納得した上でルールやマナーを守ることができるよう努めた。多くの生徒は理解してくれるが、理解しない生徒や理解しても行動に移せない生徒がいる。</li> <li>学園祭の生徒実行委員会は、各課程の委員が集まり、コンサートの企画など学園祭の成功に向けて意見を出し合った。各企画においても、一人一人が準備や運営に携わった。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組みが十分でないため、生徒の意識向上も十分ではない。</li> <li>積極性は増しているものの、自律までにはまだ至っていない生徒が多い。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの制限がなくなり、前年度より積極的な達成目標を設定した。多くの生徒は「今、何をしなければならぬか」その時々で求められる行動を自分で考え、行動に移すことができている。</li> <li>学校行事の時だけでなく、普段から自律的な行動をとることができるよう生徒との対話を行っていききたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活についてのアンケートを実施しているが、設問を工夫して生徒の変容が分かるようにしたい。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 【その2】		
重点課題	基本的生活習慣の確立（睡眠）		
現 状	<p>よい睡眠をしっかりととることが大事なことは誰もが周知のとおりであるが、本校の生徒がよい睡眠を十分にとっているかというところではなさそうである。</p> <p>体調がすぐれず保健室へ来室する生徒はあとを絶たず、寝不足と答えることが多い。スマートフォンによるゲームや SNS（ツイッター、インスタグラム、ラインなど）に依存し、夜中に長時間使用している様子である。また、アルバイトで生活時間が不規則になることから睡眠時間の確保ができないという生徒も多い。</p> <p>本校昼間単位制では新入生と保護者にプロフィールカード調査をおこなっており、その調査結果からよい睡眠がとれていないと自覚している生徒が 42 名（約 40%）におよんでいる。</p> <p>そこで、生徒の多くが、よい睡眠をとれるようになり、こころとからだの健康を目指すことを課題目標とし、よい睡眠をしっかりととれる方法を共に考え、実行していく必要性がある。</p>		
達成目標	生活習慣の確立 （よい睡眠を心がけるようになった） 70%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒へ睡眠に対する実態調査を行い、現状と課題を明らかにする。</li> <li>外部講師による講義の機会を設け、睡眠について学習し、改善方法・対処法を考え、よりよい睡眠をとろうとする意識を高める。</li> <li>保健室前の掲示板を活用し、生徒の興味関心を引くような掲示物を作成し、睡眠の大切さについて知らせる。</li> <li>毎月発行している保健だよりに、睡眠をテーマにした記事を連載することにより、睡眠についての知識、情報を得る機会とし、睡眠について興味関心を持たせる。</li> <li>学園祭で保健厚生委員による「睡眠」をテーマにした調査・掲示を行い、生徒のよい睡眠をとろうとする意識を高める。</li> <li>アンケートを実施し、その結果を考察し次年度に活用する。</li> </ul>		
達 成 度	76.3%	ほぼ睡眠時間が足りている 55.0%（4月） よい睡眠をとっている 76.0%（前期） よい睡眠をこころがけている 76.3%（後期）	71.0%（後期） 76.3%（後期）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠に関する専門家、神川康子先生による講演を実施（前期）、睡眠がこころと身体の健康に大きく作用することを学ぶ機会とした。（昼間1年次）</li> <li>常時、保健室前の掲示板に睡眠に関するポスター等を掲示した。</li> <li>毎月発行する保健だよりに、睡眠に関する記事を掲載した。</li> <li>学園祭では、保健厚生委員が睡眠に関する調査をまとめた資料を掲示した。</li> <li>公認心理師 山藤奈穂子先生による講演を実施し（後期）、身体をリラックスさせる脳パフォーマンスを高める方法を学ぶ機会とした。（昼間1年次）</li> </ul>		
評 価	A	アンケートでは、よい睡眠をとっている生徒が前期、後期ともに 70%を超えた。よい睡眠を心がけていると答えた生徒は 76.3%となり目標は達成した。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍による行動制限がなくなり活動的になった反面、アルバイトなどで生活リズムがくずれる傾向にある。睡眠時間をきちんと確保したいけれどなかなか思うようにできない思いの生徒がいる中でこの取り組みはよかった。</li> <li>講演会はせっかくの機会なので、1年次だけではなく全校生徒を対象に行ってほしい。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	・良い睡眠をとっている生徒が7割を超え、睡眠をとろうとする意識を高めることはできたが、睡眠の質となると疑問が残る。具体的に呼吸法やリラックス方法を継続的に講習するなどして、睡眠時間の確保とともに、質の良い睡眠を習慣化させていくことが大事となる。そのことを通して基本的生活習慣の確立、こころと身体の健康へと繋げることを目指していく。		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援	
重点課題	進路実現をめざす支援活動	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意識が卒業することにだけ向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。</li> <li>・進路決定に必要な知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。</li> <li>・進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。</li> <li>・昨年度の達成度（3課程平均 85.1%・専攻科 94.4%）は、達成目標を下回っている。</li> </ul>	
達成目標	年度末での進路先決定率 ※就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とし、進学に関しては第一志望に限定しない。 90%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査などを通して早いうちから卒業後の進路について考えることにより、受講登録など学習計画に反映させ、進路実現を行えるよう支援する。</li> <li>・進路について考えさせる機会を工夫し、進路意識の向上を図る。</li> <li>・オープンキャンパスや応募前職場見学などに積極的に取り組ませ、進路意識を高める。</li> </ul>	
達 成 度	年度末での進路先決定率 3課程平均：93.1%（昼間：96.1%、夜間：100.0%、通信：78.9%） 専攻科：84.2%	
具体的な取組状況	○進路について考えさせる機会を増やすため、卒業年次（3・4年次）と2年次に講義や体験の機会を増やした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業年次生を対象に進路説明会（模擬授業を含む）を6月15日に実施した。</li> <li>・求人票閲覧システムを導入し、自宅で求人票の閲覧が可能となった。</li> <li>・2年次生を対象に進学説明会を11月13日に実施した。</li> <li>・2年次生を対象に卒業生のアドバイスを聞く進路ガイダンスを2月14日に実施した。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学については一般選抜まで粘り強く取り組む生徒がおり、個別支援を継続している。</li> <li>・求人票閲覧システムを導入し、卒業前の年次にも取り入れている。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路に加え、夢のある人生や社会の在り方まで考えさせて欲しい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じた個別指導の工夫改善が必要である。</li> <li>・進路情報の提供方法の工夫が必要である。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	生徒が主体となる自主的な特別活動の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。</li> <li>・生徒の中には集団活動が苦手な者もあり、学校行事への参加に必ずしも積極的でない傾向がみられる。そのため参加形態や内容の工夫が必要である。</li> <li>・日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。</li> </ul>	
達成目標	① 学園祭に参加した生徒の満足度	② 生徒の主体的な地域交流、ボランティア活動を実施
	85%以上	年5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭では4課程合同の企画を推進し、県民カレッジおよび、各課程間の相互理解を深めるとともに、多くの生徒が意欲的に取り組むことができるように内容を考慮する。また、学園祭事後アンケート項目について、一層の工夫を加え、生徒の満足度や問題点を分析する。</li> <li>・生徒会執行委員会と各種委員会との連携を深め、活動内容を増やすことで、生徒会活動をより活性化させ、生徒の自らの判断する力を育てる。</li> <li>・地域との交流活動等、校外での自主的活動の機会を積極的に増やし、協働・共生していく姿勢を育てる。</li> </ul>	
達 成 度	① 94.2%	② 5回実施
具体的な 取組状況	<p>① 学園祭に関する意識調査によれば、学園祭に参加して満足したかの設問に関し、「強く思う」39.5%、「思う」54.8%という集計結果であった。</p> <p>② 地域交流活動として「春のフェスティバル・イン・あたご」「愛宕ふれあい朝市」「愛宕文化祭」等へ参加した。また環境保全活動として「花街道プロジェクト2023」へ参加した。</p>	
評 価	A	意識調査による目標値は達成した。また、生徒会執行委員会、部活動、家庭クラブ等の有志生徒が、地域交流やボランティア活動に意欲的に参加、活動したところが良かった。
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がいきいきと活動している姿は良い。このような活動は今後も継続してもらいたい。</li> <li>・校外の生徒の活動をもっと広く知らせてはどうか。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭の意識調査では満足度が高かったが、必ずしも主体的に活動した結果ではない。参加者各自が主体的に参加できる工夫を凝らすと共に、他の企画との連携を図ることや、他課程との合同企画を推進するなど、より「協働」を意識した行事となるように取り組んでいきたいと考えている。そのことにより、参加者各自の協調性を伸ばしていきたい。</li> <li>・地域交流活動においては、一定の定着を図ることができたと考えているが、イベントの回数を増やすことを目的とせず、参加生徒の地域への愛着をより深め、愛宕地区の住民の方々にも本校生徒を理解していただける場面になるように取り組んでいきたい。また、家庭クラブや各種委員会等との連携を深め、福祉的分野や防災関連分野についての学習の場となるような要素をより強化していきたい。</li> <li>・環境整備ボランティア活動についても、一定の定着を図ることはできたと考えているが、継続的に活動するという観点で課題がある。花壇整備に関しては、水やり、草むしりなど育成管理をどのように継続させるか考慮する必要がある。例えば、広報活動を活発化させ花の世話をする有志生徒の数を増やしたり、他校との連携を図りながら花壇を共同管理する具体案を提示しながら課題の解決を図っていききたいと考えている。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)